出会いを大切にしていくことで、人生は豊かに

ある訪問看護ステーション・スタッフのみなさんと、障害児を育てている親御さんの気持ちについて、懇談する機会を得た。

話題提供者として自分を紹介してくださったのは、十年近く前に在宅重症児の家庭訪問を共にしていた保健師だった。
当時の訪問先のお母親さんとは、今もメール等で交流させてもらっているが、偶然にもこの訪問看護ステーションは、この家庭を担当していた。

後日、保健師から次のようなメール（抜粋）をいただいた。
【　本当にありがとうございました。
一緒に参加させていただき、本当に良かったです。
ステーションの皆さんにとっては、障害児の支援は高齢者等と同じであること（寄り添うこと）がよく理解できたと思いましたし、家族支援（特に母）は障害児のためであること、専門職は検証していくことが重要、コミュニケーションについて等々、基本になることを改めて確認することができたのではないかと思います。

阿部さんたちと在宅訪問をさせていただき、その時は夢中だったように思いますが、果たして対象者や御家族にとってはどうだったのだろう、と当時のことを思い出しながら聴いていました。

相手に寄り添うことが基本であることを改めて考えました。
この研修会も、不思議な縁で開催できたなあと思います。
〇子ちゃんのところに訪問している看護師さん方であるのも、凄い繋がりだなあと思いました。

簡潔に説明できないところもありますが、目から鱗のような思いで帰ってきました。
出会いを大切にしていくことで、人生は豊かになるのですよね。　】

早速、次のように返信（抜粋）した。
【　本当に今日のような機会を紹介していただき、ありがとうございました。

重い障害があっても純粋・無垢な子どもたちだからこそ接する我々も素直になれ、今回のような心優しい方々との出会いの機会をたくさん与えてくれる、凄い存在だと思っています。

偶然の出会いであっても互いに心の想いを伝え合ってこそ、人の繋がりが生まれ人生を豊かにしてくれるのでしょうね。　】

また、お母さんへは次のようにメールで伝言をお願いした。
【　本当に〇子ちゃんのお陰で、今回のような機会をいただいたことになります。
〇子ちゃんに、「ありがとう」とお伝えくださいね。　】

阿部幸泰　（2007 年 11 月 25 日　記）